

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 7月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4770800375
法人名	医療法人 太陽会
事業所名	グループホーム ていだの家
所在地	浦添市仲西3-9-11 (電話) 098-878-3383

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年6月27日

## 【情報提供票より】(H20年5月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	13人 常勤 7人, 非常勤 5人, 常勤換算 8,9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費10,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(5月9日現在)

利用者人数	7名	男性	2名	女性	5名
要介護1		名	要介護2		名
要介護3	5	名	要介護4	2	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 84,4 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 太陽会 かりまた内科医院(有床)・三愛歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは2階建住宅兼店舗を改装し、宅老所としての実績を踏まえてグループホームとして2年半が経過している。住宅や店舗が密集した通りにありながら比較的落ち着いた佇まいがあり、人々の普通の暮らしに寄り添うように地域の一員としての存在を示している。母体法人との医療連携体制により、利用者の日常健康管理や状態変化にも迅速に対応がなされ、利用者家族の安心につながっている。又、運営推進会議を活発に運用し、地域に開かれた認知症ケアの拠点となるよう取り組みを始めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善課題(外部 1, 2)掲げている運営理念の表現が、分かりにくいものとなったままである。職員の日々の気付きから生まれる我がモットーとしての自分の言葉を出して欲しい。(外部 29, 30)居室の空間づくりに必要な家族の協力に対する働きかけがまだ不足とみられる。1階浴室のプライバシー保護のためのついで、カーテンなどの取り付けは実行されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>「ホームの課題を具体化させることが評価の意義である」と理解してはいるが、全体として運営者を始め管理者、職員全員が、前回の改善課題をふまえて自己評価に取り組んでいる姿勢があまりみられない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>殆ど全委員の出席のもと、欠かさず2ヶ月に1回開催し、活発な意見交換をすることでサービスの質の向上に活かしている。運営報告や、ヒヤリ・ハット事例、事故報告あるいは家族からの苦情や相談なども議題として、委員からの声、意見を聴取し、ケアの実際に役立っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的な電話連絡の他に、利用者の健康状態、受診状況やその結果などは即日家族に伝えている。又、面会時に日々の介護記録を閲覧してもらい、利用者の日常の様子を知ってもらったり、家族の相談に応じている。今後は「ホーム便り」を復活させ、ホームのお知らせや行事計画を知ってもらい、家族の思いや希望をとり込んだケアを目指して欲しい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>団地自治会に加入し、行事への参加や手伝いなども行ったり、「地域づくりキャンペーン」のキーパーソン養成講座にも参加し、地域の一員として交流を深めている。今後管理者はキャラバンメイトとしても「認知症サポーター講座」を開くなど、地域に密着した認知症ケアの拠点としての取り組みを期待したい。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用案内パンフやホーム玄関に地域密着型サービスが目指すグループホーム独自の介護理念3項目を掲げ、毎回の申し送りなどで確認している。	○	理念の文章自体が分かりにくく漠然とした印象が強いので、あらためて職員全体でこのホーム独自の理念について話し合い、「自分の言葉」として表現できるように取り組んで欲しい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は「理念」を振りかえる機会をもうけ、それぞれが自己評価を行いながらホーム全体としてどうあるべきかを話し合っている。	○	「理念」を検討する際、職員一人ひとりが日々のケアに結びつくようなモットーとしての理念をつくり出してゆく取り組みが望まれる。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	直近の団地自治会に入会し、各種行事への参加、手伝いなどを行って地域の「コミュニティー作り」活動にも参加し、積極的に地域との交流を深める努力を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、ホームの現状を客観的に指摘されることで、今後の課題を知る良い機会ととらえている。前回改善点とされた浴室前の目かくしパネルやカーテンの取り付けが実行されている。	○	指摘された改善課題や改善計画を記録し、できることから取りくみ実践していくように取り組んで欲しい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、ホーム内の運営状況やヒヤリ・ハット事例の報告等を行い活発な意見交換をすることで地域に理解され開かれた場となるよう積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険担当職員が運営推進会議に参加はしているもののそれ以外にホームでの相談事を持ちよって行き来するような連携は行っていない。</p>	○	<p>市内グループホーム連絡会でも、市職員との合同連絡会を企画中とのことで、今後の連携体制づくりに期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的な電話連絡や家族の面会時などの機会をとらえ介護記録を閲覧してもらったり健康面の状態変化などを即時連絡し、報告している。</p>	○	<p>現在休止している「ホーム便り」を復活させ、運営推進会議録と交互に隔月発行としてみるなど工夫してみてはどうか。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議において、家族の意見、苦情なども報告し具体的な意見や改善策などの提言を受け運営に活かしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動は本人の意向を聞き入れながら、他の職員とも話し合い納得がいくようにはかっている。代わる場合は、当分の間の職員配置を厚くしたりなど工夫している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は管理者と共に法人内外の研修を受講する必要性を理解し、研修の計画、参加の確保など積極的に行い、研修報告会を通じて運営に活かしている。「研修を受講したことで家族の意向をより意識的に引き出すことができるようになった」という職員の声も聞かれた。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は、サービスの質の向上にむけて管理者・職員が、地域の同業者と交流する必要性は理解しているが、現在具体的な交流はされていない。</p>	○	<p>市のグループホーム連絡会の活動をとおして同業者のネットワークづくりに取り組んでサービスの質の向上に向けて努めて欲しい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くは入居にあたって緊急性や、家族の事情もあり、体験入居を試す余裕がもてない現状である。入居前利用していたデイサービス職員と話し合い、継続した関わりが始められるよう検討した事例などはある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に穏やかな態度で接し、本人の意向の表明を「待つ」姿勢を大切にしている。しかし、職員から働きかけて一人ひとりが何を望んでいるのかどのように過ごしたいのかをゆったりとした会話の中から引き出す時間的なゆとりが少ないのではないかと。	○	職員は一日に一回必ず一人ひとりに寄り添い、ゆったり過ごす時間や場面をつくって欲しい。利用者が抱える不安や喜びを知ることで、人生の先輩から学ぶこともでき相互の深い共感につながると思われる。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族にアセスメント表を記入してもらい、これまでの暮らしの状況や本人の希望、意向を把握して、日々のケアのなかで本人の今の思いをくみとって、一人ひとりに対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしく暮らしてゆくためにはどのようなケアが必要となるのか、本人を中心にして家族の意向、関係者の意見もとりにいれて話し合うなかで個別で具体的なプランとなるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し時期前であっても、申し送りなどで確認された利用者の変化についてプランの変更が必要となった場合は、すぐに対応し、家族の了承を得て迅速に見直しを行っている。	○	介護計画作成、目標期間での評価、評価に対応する見直しは、一連の流れの中で個別に見やすく記録され又、職員全員がいつでも確認できるような書式をつくり上げるよう話し合い、検討してみようか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、運営者である医療機関の医師が、管理者の看護師とともに、家族の意向をふまえて訪問診療、在宅支援(有床診療所)を行っている。		今年11月にはショートステイ対応の1床(9床のうち)を新設する予定で、体験入居の受け入れも可能になると期待したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者が主治医として家族との連携をはかりながら、利用者の日常的健康管理、状態変化(夜間の急変)についても管理者兼務の看護師の24時間オンコール体制で迅速な対応が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度になったり終末を迎えた場合は、家族と事前によく話し合い意向を主治医に伝え十分な療養ができるように本人、家族、職員が方針を共有するよう努めている。	○	今後は家族、職員、主治医が連携をとりながら適宜話し合いを続けると共に、意志確認書を作成しそれに基づきスムーズに対応できるよう取り組んで欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りや尊厳を傷つけないように職員同士で気付いた時すぐ注意し合うなど、意識的に関わっていくよう努めている。	○	特に言葉による利用者への影響について認識を深め、職員どうしの気付きを共有していくよう期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の介護プランを進めていく際に、その日どのように過ごしたいのかなど、本人の意向表明を「待つ」姿勢を徹底して行うよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在ホームで作っているのは朝食とご飯、汁物のみで、その他は配食サービスを利用している。職員も食卓につき介助しながら食事をとっているが、食事づくりと一緒に楽しみながら行う和やかな雰囲気あまり感じられない。	○	一部配食サービスの利用が、今後固定化しないように勤務体制も含めて食事作りの重要性について話し合い、見直しを検討してみてもどうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	平均して週3回の入浴となっている。拒否する人にどうしてなのかをじっくり聞き出し本人が納得の上で入ってもらうタイミングをつかんでいる。	○	午後5時以降の入浴は勤務上の都合で行えないとのことだが、希望があれば応じられるように何らかの工夫ができないものだろうか。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙、チリ入れ紙箱づくり、もやしのヒゲとり、花木の水やり、洗濯ものたたみなど、楽しみながら出きることを支援している。	○	個人の趣味、楽しみごとを触発するような物品(道具)が少ない。決めごとでなく一日の中でそれぞれの人が気分転換できるような工夫が望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの団地のミニ公園に散歩に行ったり、希望によって法人のデイケアに出向き集団レクなどに参加したり買い物かてらのドライブなどに出かけている。		外に出たがらない人、重度であったり車イスの人などにも積極的に働きかけて、なるべくひんぱんに戸外に出てもらえるような支援が望まれる。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中午後7時ごろまで1階玄関の鍵はかけず戸口もオープンにしている。		移動方法がエレベーターだけなので、日頃利用者が受ける閉塞感についても配慮し、見守りながら自由な行動をさまたげない対応が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年7月中にホーム独自の防災訓練を実施する予定。運営推進会議にも提案して地域の人たちの協力が得られるようとりくむ計画である。		当ホームではエレベーターを使った避難が基本となるので避難経路の確認など日頃のシュミレーションを欠かさず行い、訓練実施を機に職員全員がとり組むよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量は個別の記録をもとにチェックしている。えん下や摂取量に問題のある方には、ミキサー食、エンシュアなどの補助食で対応している。水分については一人250mlペットボトル2本を目安に不足のないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が1階と2階部分に分かれており、移動はエレベーターが使われている。車イス対応の方が多いため、日常の生活空間としては主に2階部分になる。2階のメインテーブル近くに腰掛けたり横になったり作業台として使ったりもできる畳敷きの木製ベンチが置かれ、くつろぎのスポットとなっている。	○	暮らしの中で感じる季節の移り変わりを年の行事などと関連づけて飾りつけをしたり、皆で話題にしたりすることで以前の暮らしの記憶を引き出すこともできるのではないかな。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は備え付けのベット、枕頭台、プラスチックの小ケース以外に個人の好みの物品や慣れ親しんだ家庭用品などが少なく、家族に対する説明や働きかけも充分とはいえない。	○	家族の反応が弱いのであれば、ホームとしての意向を充分説明して納得してもらえるよう取り組みが望まれる。